

**「南海トラフ地震に関連する情報」
と
洪水警報を補足する「危険度分布」
について**

京都地方気象台

平成30年6月8日

「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」第1号

対象事象発生後、約30分以内に 発表

平成〇年〇月〇日〇時〇分

気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）（第1号）

本日（〇日）〇時〇分頃に遠州灘でM8.0（速報値）の地震が発生しました。

気象庁では、今回発生した地震と南海トラフで想定されている大規模地震との関連性についての調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」でお知らせします。

内容は「判定会の開催のお知らせ」

「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」第2号

南海トラフの東側だけで大規模地震が発生した場合の例

平成〇年〇月〇日〇時〇分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関する情報（臨時）（第2号）

○見出し

本日（〇日）〇時〇分に遠州灘で発生したM8.0の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、（今回の地震から1週間程度、）大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

○本文

本日（〇日）〇時〇分に、遠州灘でM8.0の地震が発生しました。この地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震です。

その後の地震活動の広がりから、今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

その後の地震活動は活発で、また、地殻変動データにはM8.0の地震に伴うステップ状の変化とそれに引き続くゆっくりとした変化が観測されています。【状況に応じ、地殻変動の特徴やその評価について記載（評価ができない場合は「調査中」）】

南海トラフの大規模地震の過去の事例では、1944年の昭和東南海地震の約2年後の1946年に昭和南海地震が発生しました。また、1854年には、安政東海地震の発生から約32時間後に安政南海地震が発生しています。このように、南海トラフでは、大規模地震の発生直後から数年のうちに隣接する領域で大規模地震が発生した例があります。

また、全世界で1900年以降に発生したM8.0以上の大規模地震96事例のうち、その後隣接する領域で同程度の規模の地震（最初の地震のM±1）が発生した頻度は、最初の大地震の発生から3日以内に10事例、4日から7日以内に2事例ありました。

これらのことから、南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、（今回の地震から1週間程度、）大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

和歌山県沖から日向灘の領域で大規模地震が発生した場合には、西日本を中心に、強い揺れや大津波が想定【発生した地震の状況に応じて、想定される地震や津波についてお知らせします】

次回の情報発表は、〇〇時頃を予定しています。

なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

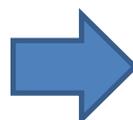
対象事象発生、約2時間後に発表



○見出し
現象のまとめを記述



○本文
現象の詳細を記述
メカニズム
可能性が高まっていると判断した根拠



○本文
次回の発表時刻を記述

「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」

平成30年05月09日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関する情報(定例)

本日(5月9日)開催した第7回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第385回地震防災対策強化地域判定会で評価した、南海トラフ周辺の地殻活動の調査結果は以下のとおりです。

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

主な深部低周波地震(微動)として、4月13日から4月21日にかけて、伊勢湾から三重県のプレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)を観測しました。

2. 地殻変動の観測状況

4月13日頃から4月20日頃にかけて愛知県及び三重県の複数のひずみ観測点でわずかな地殻変動を観測しました。また、同地域及びその周辺の傾斜データでも、わずかな地殻変動を観測しました。一方、GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

上記の深部低周波地震(微動)と、ひずみ及び傾斜データで観測した地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した「短期的ゆっくりすべり」に起因すると推定しています。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータも今のところ得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていないと考えられます。

※※(参考) 南海トラフ地震に関する情報の種類 ※※

【南海トラフ地震に関する情報(臨時)】

以下のいずれかに該当する場合に発表。

○ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合。

○ 観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合。

○ 南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合。

【南海トラフ地震に関する情報(定例)】

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会の定例会合において評価した調査結果を発表。

毎月、月初めに発表

1. 地震の観測状況

主な深部低周波地震(微動)として、4月13日から4月21日にかけて、伊勢湾から三重県のプレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)を観測しました。

2. 地殻変動の観測状況

4月13日頃から4月20日頃にかけて愛知県及び三重県の複数のひずみ観測点でわずかな地殻変動を観測しました。また、同地域及びその周辺の傾斜データでも、わずかな地殻変動を観測しました。一方、GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

地震及び地殻変動の状況を説明

定時を見ておくことで、地震の活動状況が把握でき、臨時発表時の理解に役立ちます。

更に詳しく知りたい場合は、気象庁HPの報道発表資料に南海トラフ地震に関する情報(定例)について判断の基となるデータが載っています。

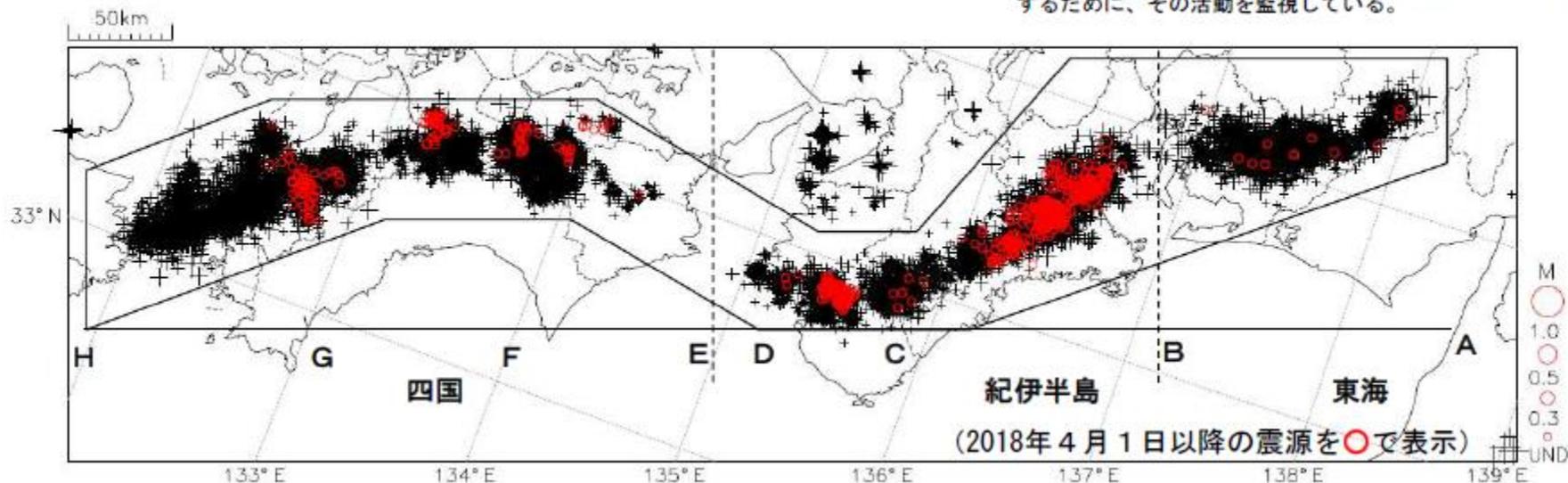
「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」

「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」

報道発表資料 抜粋

深部低周波地震（微動）活動（2000年1月1日～2018年4月30日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



普段から情報に接しておくことが、いざと言う時に役立ちます。

洪水警報の危険度分布

危険度の高まりを伝える情報

洪水注意報

洪水警報

等

危険度の高まりを伝える

市町村

住民

危険な地域を視覚的に確認

危険度が高まる場所の情報

洪水警報の危険度分布

2016年08月30日14時50分

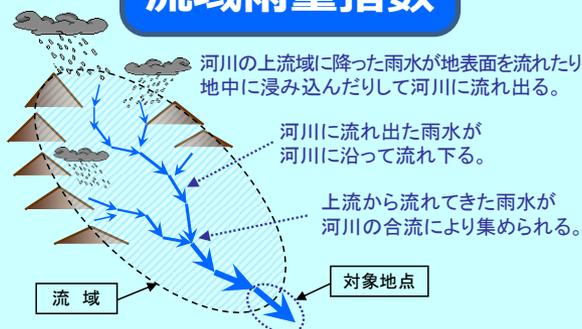
3時間先までの予測



洪水警報等が発表された市町村内において、実際にどこで危険度が高まっているかを確認。

精緻化した流域雨量指数

市町村単位で警報等を発表



基準による判定結果を地図上に表示

河川の洪水危険度をリアルタイムで予測

(政府インターネットテレビより) : <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg16847.html>

政府の動きや政府の重要政策を動画で紹介します。
政府インターネットテレビ

TOPへ戻る

動画をご覧になるには

よくある質問

English

番組検索 検索

+ カテゴリから選ぶ



河川の洪水危険度をリアルタイムで予測 危険度分布

防災・減災



番組一覧



河川の洪水危険度をリアルタイムで予測 危険度分布



震が開からお知らせします～進化し続ける「緊急地震速報」



徳光・木佐の知りたいニッポン！～地域防災の要 あなたの街の消防団

+ さらに表示

+ カテゴリー一覧

公開日 2018年5月17日 満足度：★★★★★

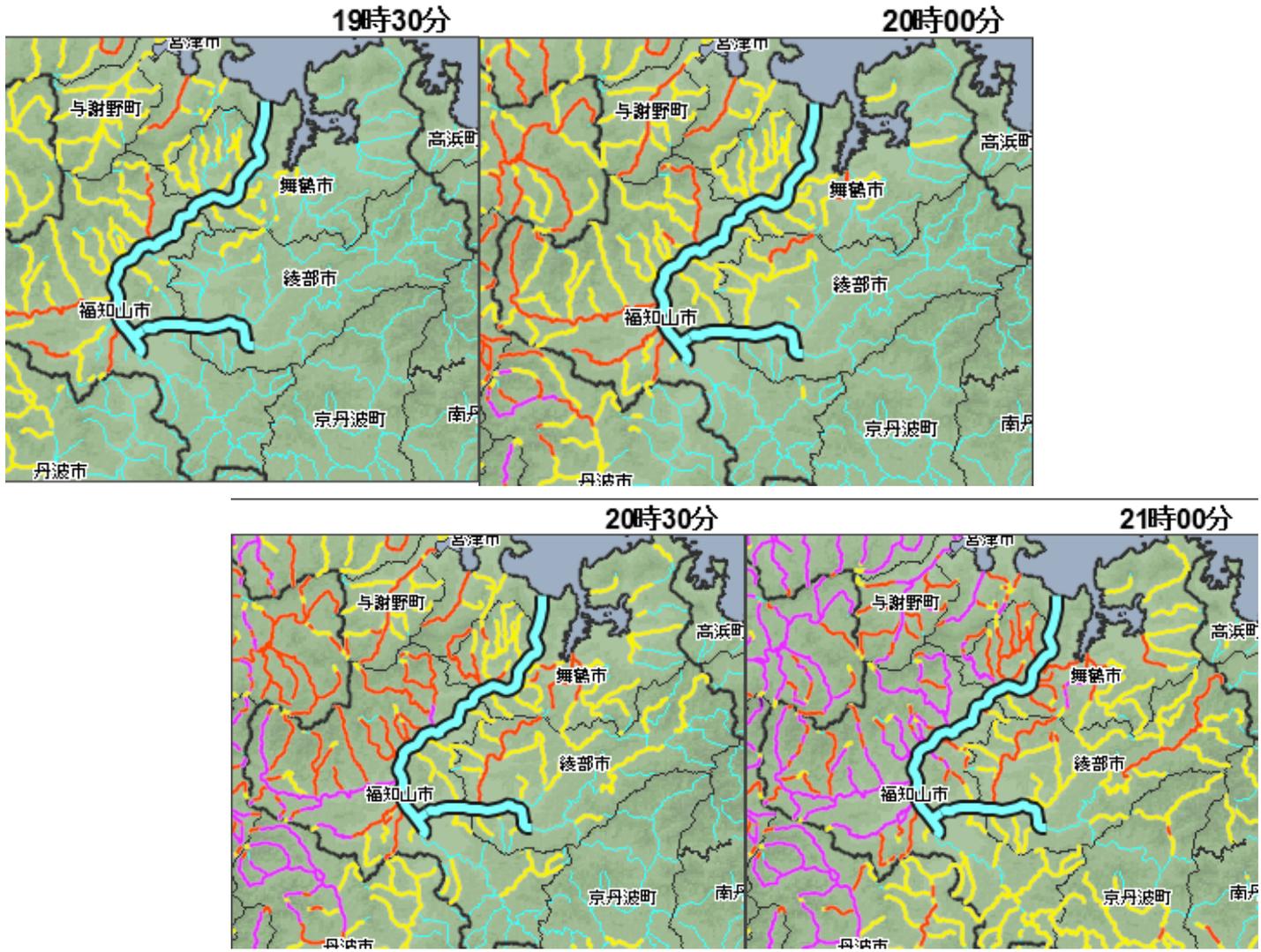
大雨時に、河川の洪水危険度を予測する情報についてご存知ですか？気象庁がインターネット上で公開している洪水警報の危険度分布では、全国約2万河川の危険度を5段階に分けて表示しています。番組では、これをどう活用できるのか、実例に照らしてご紹介します。

ツイート

この番組のURL <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg16847.html>

平成29年9月 台風第18号時の洪水警報の危険度分布

平成29年9月17日：中小河川の危険度を予測も含め提供



危険度分布の利用（まとめ）

警報等が発表されたときに、危険度が高まる時間帯と場所を一目で把握できる情報が提供されている。現地情報と合わせて用いることで、市町村や住民が、これまで以上に納得感を持って避難勧告や避難開始を判断できるようになった。

危険度の高まりを伝える

警報級の可能性

注意報

警報

土砂災害警戒情報

特別警報

等

Push型の情報

危険度の高まり等を伝える

市町村

危険度の高まるタイミングやエリアを確認

住民

危険の詳細を把握

市町村長の避難勧告
住民の主体的避難

危険度が高まる時間帯と場所

警報（危険度の時系列）

いつ

警報・注意報等	今後の推移 (■警報級 □注意報級)								備考	
	7日				8日					
	18時	21時	0時	3時	6時	9時	12時	15時	18時	
雨量(ミリ)	10	30	60	60	50	30				
大雨 (浸水害)										浸水注意
(土砂災害)										土砂災害注意
洪水 (洪水害)										
雷										竜巻、ひょう

警報の危険度分布

どこで



等

Pull型の情報

内閣府の「避難勧告等に関するガイドライン」が平成29年1月に改定され、急激な水位上昇が発生する中小河川（水位周知河川・その他河川）における避難勧告等の判断には、水位計や監視カメラ画像から得られる“現地情報”に加え、「流域雨量指数の予測値」（洪水警報の危険度分布）などの水位上昇の見込みが判断できる“予測情報”も合わせて活用するという新たな考え方が追記されました。

